

笑顔

熊本市高齢者支援センター ささえりあ帯山

熊本市中央区保田窪1丁目 1-33 第2大田ビル1階

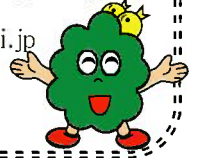
第25号

電話:096-241-0230 FAX:096-241-0232

平成25年10月

E-mail:sasaeriaobiyama@kyouninkai.jp

http://www.kyouninkai.jp/obiyama/



地域ケア会議を始めました

前月(第24)号では、今後高齢者の方々が住み慣れた地域で尊厳ある生活を可能な限り継続できる体制の整備が必要になっていること、つまり「地域包括ケアシステム」についてご紹介しました。今回はその「地域包括ケアシステム」を地域(ほぼ中学校区)で創っていくための手立てとなる「**地域ケア会議**」について触れてみます。



H25.8.20

例えは、地域との交流が途絶え、自宅に閉じこもり

がちなお一人暮らしの方や、ゴミをため込んで、近隣は火事等に不安感が募っている方への支援は担当の民生委員さんやケアマネジャーさんだけの対応は難しくなります。そこで、地域包括支援センターが主体となって行政職員、社会福祉協議会、ケアマネジャーや介護サービス事業者、医療関係者、後見人、民生委員さんや自治会、商店主、状況次第では警察官も会議に参加して頂き、皆さんと一緒に解決に向けての手立てを考えていきます。

これは**個人(個別的)の課題解決を目的**としますが、実は地域の他のの方々の課題として共通するかもしれません。つまり声かけの協力者がいない、閉じこもり高齢者の方をどう発見するかなど、これは地域の課題でもあり得ます。この場合、町内会が見守り・声かけ体制を作っていくとか、地域住民を対象にした勉強会を開催したり、場合によっては新たに行政への政策形成を要望していくことも考えられます。

このように**個別課題(お困りごと)の解決が地域全体の課題(お困りごと)の解決へ繋がりますが**、それはまた**個別課題の解決に活かされること**になります。その過程と循環を通じて、地域包括ケアシステムの実現に向かうものと思われれます。

ささえりあ帯山でもこの地域ケア会議を開催しております。

今年度は、圏域内の主任ケアマネジャーさん方と一緒に、8月に第1回目を行いました(写真上)。皆様、住み慣れた地域で生活を続けられるよう一緒に手立てを考え、仕組みを創っていきましょう。どうぞ宜しくお願い致します。

(センター長 那須久史)

認知症キッズサポーター養成講座

9月25日(水)の5・6時限目に託麻原小学校6年生120名を対象に、**認知症サポーター養成講座**を開催致しました。内容は、5時限目に講義を行い、6時限目に民生委員さんにご協力いただき「**何度も同じことを聞いてくるおばあさんに対して、何と答えるか?**」をテーマとしたグループワークを行いました。託麻原小学校での開催は今回で3回目ですが、毎回子ども達からはパワ

ーを頂くとともに、子ども達の純粋な心に癒されます。今年度は、帯山小学校と帯山西小学校でも認知症キッズサポーター養成講座を開催する予定です。認知症サポーター養成講座を受けてみたいと思われている方がいらっしゃいましたら是非、ご参加お待ちしております。お気軽にささえりあ帯山までご連絡ください。



▲たくさん手を挙げてくれました～♪ ▲お礼の言葉を頂きました。



▲最後はみんなで「ハイ!チーズ!」

ボランティア講習会

7月25日、帯山西地域コミュニティセンターにて帯山西校区社会福祉協議会主催の「**第2回ボランティア講習会**」が開催されました。帯山西校区にお住まいの方を対象としたこの講習会は、ボランティア協力員として地域での見守りを強化するための勉強会でもあります。今回は、私たちささえりあ帯山のセンター長・那須より「**みんなで創ろう声かけ・見守りネットワーク～住み慣れた帯山西で住み続けられるように～**」をテーマに講話をさせて頂きました。

- 内容は3部構成になっており、
1. 「地域包括ケアってなに?」
 2. 声かけ・見守りの方法は?
 3. 皆さんにできること、出来そうなこと!



でした。今回は老人会や婦人会、子供会をはじめ約60名余りの方が参加され、とても有意義な講習会となっていました。今回の講習会に参加をし、帯山西校区の方お一人おひとりの地域活動参加への意識の高さを見る事ができました。さらに、地域住民の皆様のご協力を得て、社会福祉協議会の目的である『負担にならない見守り体制』が少しずつ構築されていくのではないかと感じる事ができました。



「家族介護者教室」開催中!

7月19日、帯山地域コミュニティセンターにて「**介護サービス事業所との交流会～校区の事業所紹介します～**」をテーマに、第2回目の家族介護者教室を行いました。今回は、帯山校区内の様々な事業所にご参加いただき、事業所の活動紹介や特色の説明、パンフレットの配布などをして頂きました。なかには簡単にできる体操の紹介などもあり、私たちささえりあ帯山のスタッフも参加者の皆さんと一緒に身体をほぐしながら説明を聞くことが出来ました。約40名の地域の方の参加があり、家族介護者教室終了後のアンケートには「とても分かりやすかった。校区にたくさんの事業所があり驚きました。」「たくさんの事業所の説明が一度に聞いてよかった」といった感想をたくさん頂くことが出来ました。今後、どのようなテーマをとりあげたらよいかなど、皆様のご意見・ご感想をお待ちしております。



認知症事例検討会

7月21日熊本学園大学14号館にて、「**第1回 ささえりあ帯山圏域 認知症事例検討会**」を開催しました。熊本学園大学社会福祉学部 黒木邦弘先生の司会進行のもと、フォレスト熊本ケアマネジャーの古市氏の「**かかりつけ医が異変に気づき、支援のネットワークが拡大した事例**」をもとに医師や民生委員、地域の方、ケアマネジャー、事業所のスタッフの方々と一緒に話し合うことが出来ました。認知症があり、お一人暮らしの方の支援として事業所は何か出来るのか、地域の住民として何か出来る事はないか、また地域にある資源などを利用して、本人が安心して自宅で暮らせる環境をつくる

ためにはどうすればいいのか、どのサービスを利用すればいいのか等、それぞれの立場から色々な意見交換をされていました。対応策がなかなか見つからない中、「こういった事例が増えてくると思う」、「介護サービスだけでは対応は無理、地域や周りとの関わり、協力を本人と一緒に探ることが必要」等、今後地域で認知症の方の支援をしていくには、いろんな方々の協力、支援が必要になっていく事、個人を支える地域づくりが大切であることを改めて感じる良い機会になりました。



平成二十五年七月十三日（土）、託麻原地域コミュニティセンターにて『**家族のつどい**』が開催されました。この「つどい」は、託麻原校区**社会福祉協議会**が主催となり、**認知症の人と家族の会 熊本県支部（認知症コールセンター相談員）**から運営（実際の進行）のご支援を頂きながら、ささえりあ帯山が事務局としてお手伝いさせて頂いています。

つどいに参加された介護家族の方からは、今までご苦労された介護体験や、不安や戸惑いのなかでの喜びとなった体験談などを、茶話会形式でお話して頂きました。また、認知症コールセンターの相談員の方々からは、ご家族に対する労いや体験に基づくアドバイスなど、実践に役立つ情報交換が行われていました。託麻原校区では『**家族のつどい**』として、同じような境遇の介護者が交流し親睦を深め、悩み

の共感や情報交換をする「場」の提供を昨年度から始められています。多くの介護家族の方に参加していただき、仲間作りや悩みの共感・共有をして頂く一方、それが励みとなり、よりよい介護へつなげられるような「つどい」になるとよいですね。

次回は、十月二十四日（木）

に開催予定です。認知症高齢者の介護家族の方、是非一度お気軽に参加されてみて下さい。



▲ 家族のつどいの様子です。

● お知らせ

“医療が創る・支える地域包括ケア”

をテーマとした在宅療養医療連携フォーラムを開催致します！

ささえりあ帯山圏域では、地域住民と介護・福祉領域との連携は確実に強化されてきておりますが、医療と介護サービスの連携はまだまだ不十分な状況で、いわゆる顔の見える関係構築には至っておりません。このフォーラムを通して、在宅療養中の高齢者に対し医療と介護、そして地域との連携の必要性や価値を地域全体で考えていく機会にしたいと思います。お待ちしております。

皆さん、振るってご参加ください。
（※お申込は、ささえりあ帯山まで）

【日時】

平成二十五年十一月十七日（日）
受付：午後一時
開始：午後一時半～午後四時半

【場所】

熊本学園大学 十四号館 一四二一教室



★編集後記★
朝夕はひんやりとし、すっかり秋の訪れを感じる頃になりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか？私には実家に帰りますと、栗・からいも・栗・栗・と、食卓には秋の味覚が満載です。

さて、今回は家族介護者教室や託麻原小学校キッズサポーター養成講座、帯山西ポランティア講習会などを掲載致しました。その他、各校区では地域の活動がたくさん行われており、私たちささえりあ帯山のスタッフも参加をさせて頂いていただく機会が多くあります。そしてその都度、地域の方のアイデアや熱い想いに触れ「一緒に力になりたい」と思う気持ちが強まります。皆様と一緒に、安心して生活できる地域ができるように、これからも努めてまいります。

高崎 恵美

